5 地域に向けた民俗舞踊講座

① エイサーからチャランケ祭，民俗芸能へ

私は民俗芸能，舞踊が大好きな一人の踊り手です。アートマネジメントのプロではありませんが，縁があって民俗芸能を紹介する講座やイベント，祭りに携わってきました。その経験を皆さんと共有したいと思います。

私は沖縄県沖縄市のコザという町で生まれました。沖縄市にはエイサーという民俗芸能があります。旧盆の三日間，青年団が夜中まで地域を練り歩きます。子供の頃，エイサー団体が近づいてくると太鼓の振動が伝わって来ました。家の窓が揺れて，犬が鳴き始めると「あっ，エイサーだ!」と急いで外へ出て，お兄さん，お姉さんたちの格好いい踊りに見入りました。その瞬間が大好きでした。

私は東京に上京してエイサー団体に入りました。練習場所であった東京中野にある北口広場で，夏はほぼ毎日練習していました。まさにエイサー三昧。練習後は，さんさ踊りや鬼剣舞など，日本の民俗舞踊を踊れる仲間たちと踊ったりしながら，沖縄だけではなく日本各地の民俗舞踊にも出会い，芸能への興味を膨らませていきました。

私たちのリーダー金城吉春さんが中心となって1994年にチャランケ祭が始まりました。それは沖縄，アイヌ，日本の民俗舞踊の祭りです。その祭の中で，私は沖縄ブースという文化紹介コーナーを先輩と運営しました。唄，踊りなどの民俗芸能，祈りや風習，空手や琉球舞踊，歴史など，様々な内容を紹介しました。近年は三線や太鼓，法螺貝，獅子舞などを展示して実際に触れる機会も提供し，体験コーナーとして充実してきました。このコーナーは大人にも子供にも，とても人気があります。一生懸命法螺貝を吹いて，初めて音が出た時は，周りから大きな拍手を受け，皆さん満面の笑みを浮かべます。民俗芸能の楽器や道具を近くで見たり，触れたりする機会は少ないのではないでしょうか。触れる，体験することで芸能に親しみを感じるようです。

チャランケ祭り 沖縄ブース

② 民俗舞踊講座を始める

そのような文化紹介コーナーを担当していた私に，南大塚地域文化創造館で民俗舞踊を紹介する講座をやってみないかと友人が声をかけてくれました。それが実現した企画が「日本の民俗舞踊～踊り手が語るその魅力・祈り～」でした。“地域での講座”で何を紹介したいのか考えました。何よりも伝えたいのはやはり“民俗舞踊の魅力”だと思いました。様々な踊りの動き，群舞の素晴らしさ。唄やお囃子の声の出し方，唄い方，その意味。衣装の色や形，紋様，そこに込められている思い。同じく楽器や道具の種類や弾き方，叩き方，音色の重なりから生まれる世界。獅子舞などかぶり物に関するお面の意味や，かぶることの意味。そしてその踊りがどのような歴史で生まれたのか，地域にどのように根ざしているのか。祈りや供養など宗教的な意味や役割があるのか。現在は地域でどのように捉えられているのか。また伝

日本の民俗舞踊
～踊り手が語るその魅力・祈り～

（南大塚地域文化創造館 平成28年度 文化力レッジ）

- 全5回（5/21，5/28，6/11，6/25，7/9）
  午後２時～４時
- 聞き手：宮城整（第２回～５回）
- 前半１時間は講義，後半１時間は体験（踊りのレクチャーと実際に動く）

エイサー（沖縄県）
講師：宮城整（チャランケ祭沖縄文化ブース代表）
鹿踊（岩手県）
講師：小岩秀太郎（全日本郷土芸能協会，舞川獅子踊保存会，東京鹿踊）
じゃんがら念仏踊り（福島県）
講師：鈴木崇弘（磐城じゃんがら遊劇隊）
アイヌ民族舞踊（北海道）
講師：宇佐照代（アイヌ民族舞踊グループ ヤイレンカ）
阿波踊り（徳島県）
講師：三田昭人（新粋連）

統的に行われてきた踊りを継承するための工夫と課題。創作という活動は生まれているのかなど，私が知りたい，聞きたいと思っていることを話してもらいたいと思いました。また，踊りの魅力を感じているのは踊り手自身なので，“踊り手の目線”でその魅力を語ってもらいたいと考え，踊り手が踊っている時，何をどう感じているのか，この踊りのここがいい！というポイントをコアに語って欲しいと思いました。例えば，太鼓を叩く時のこの瞬間のバチ捌きが気持ちいい，身体をすっと捻ったり，手を返すところがすごくいい，また民俗舞踊が踊られる夜の印象に残る光景など。一般的な話というよりも，より内容を深めた話題になるので，参加者が集まるのか懸念されましたが，当時の館長が気に入って承諾してくださったので，この講座が開催されることになりました。地域の歴史に根差した日本の民俗舞踊を取り上げ，動画や一部実演で紹介し，そのルーツ・祈り，伝統と創造，継承の問題を講師の方に話していただく企画となり，５つの踊りを紹介しました。

各回とも会場にはそれぞれの衣装や楽器が展示され，参加者の方々が自由に見て，説明を受けることが出来ました。衣装を着た話し手が，その衣装を話題にしながら，踊りについて解説しました。最後には体験コーナーで参加者と一緒に踊りの一部を踊ってみたり，歌やお囃子を唄ったりしました。獅子舞や鹿踊のお面などは実際にかぶってみないと，踊り手が見ている視界や景色は分からないものです。また，重さを感じてどのように動いているのかなど，体験することで踊りの理解が深まります。声の出し方，皆で合わせる心地良さ，生の楽器だからこそ体験できる体に響くリズムと躍動感など，とても良い体験が出来たと好評でした。そして，毎回，他の出演者（踊り手たち）も参加していたのですが，それぞれの踊りの違いや共通点を発見することもあり，踊り手同士の交流も生まれました。

日本の民俗舞踊 平成 28 年度講座

この講座が好評だったので，再度お誘いを受けて２回目の講座「踊り手が語るその魅力・祈り ～

踊り手が語るその魅力・祈り
～日本の民族舞踊を体験してみよう～

（南大塚地域文化創造館 平成29年度 文化力レッジ）

- 全４回（1/14，1/21，1/28，2/4）
  午後２時～４時
- 聞き手：宮城整
- 前半１時間は講義，後半１時間は体験

長崎獅子舞（東京都豊島区）
講師：喜多山哲延（長崎獅子連）
三匹獅子舞（福島県いわき市）
講師：江名守康（江名諏訪神社文化伝統保存会）
中野七頭舞（岩手県岩泉町）
講師：園田航生（中野七頭舞関東愛好会）
西馬音内盆踊り（秋田県羽後町）
講師：吉田幸子（西馬音内盆踊り愛好会）

日本の民俗舞踊を体験してみよう～」が開催されました。福島県いわき市からは，震災を通して芸能を復活させた三匹獅子舞の皆さんが東京まで来てくれました。

3 民俗舞踊イベントへの展開

これらの民俗舞踊講座が好評だったので，としま未来文化財団から民俗舞踊のイベントをやってみないかとお誘いを受けました。それが実現した企画が「ひとはおどる ～日本の民俗舞踊～」です。

「どんな民俗舞踊のイベントにしたいのか」を財団の方々と一緒に考えました。そして，ただ次々に色々な踊りが紹介されるのではなく，参加者も一緒に踊って，その魅力を体感的に味わうイベントにすることが決まりました。

北から南まで 11 の芸能団体に参加していただきました。各地から踊り手全員に来ていただくのは予算的に難しかったため，東京で活動する現地の踊り手や団体に声をかけて相談して実現することが出来ました。

このイベントは 8000 人ほどの方が来場してくれました。日本三大盆踊りが集う魅力，違う団体の踊り手が一緒に踊る交流と楽しさ，輪踊りでうねりが生まれる感覚など，南池袋公園の芝生の上で，皆で踊る楽しさは格別で，本当に幸せでした。イベント最後の瞬間に満月が出た時は，会場の皆で感動を共有しました。

日本の民俗舞踊 平成 29 年度講座

さて，このイベントが大変好評だったので，翌年「このほしで，ひとはおどる ～民俗舞踊フェスティバル～」が開催されました。このイベントは「東アジア文化都市 2019 豊島」の一環として開催され，日本の芸能 10 団体と中国と韓国の団体に参加していただきました。アジアの踊りと日本の踊りを比べることで，よりそれぞれの特徴を理解し味わう機会になったと好評でした。どうやってイベントの趣旨を伝えるかはとても重要なポイントですが，広報として作成されたパンフレットはとても魅力的で，民俗舞踊を紹介するための大きな力になったと思います。

ひとはおどる ～日本の民俗舞踊～

このほしでひとはおどる

4 実施のプロセスについて 監修の役割とは

民俗舞踊講座でもイベントでも，実施するためのプロセスはたくさんありました。ここでは私が行った“監修”という役割について，講座での動きを中心に紹介したいと思います。

まずはどのような企画にしたいのか，何を大事にしたいのかを一番に考えます。そして，それが実現可能かどうかを財団と検討しました。企画が決まった後，監修として講師，出演者に打診していきながら，財団と出演者を“つなぐ”役割を担いました。

出演を依頼したい講師の方々に最初に行うことは，企画の趣旨を理解してもらい参加の承諾を得ることです。アポを取って練習会場に伺って話をさせていただくこともありました。そして，練習後に踊りについてお話を聞かせていただきました。実は，私にとっては踊り手の皆さんから話を聞く時間がとてもわくわくする時間でした。練習を見たり踊ったりした後，私の中には聞きたいことがたくさん生まれていて，自然にインタビューが始まり，たくさん話を聞かせてもらいました。そこには踊り手しか見えていない，感じられていない世界がありました。芸能が披露されるお盆の夜，どのような世界が体感されているのか，その歴史など，聞き始めるときりがなくなるほど，楽しい時間でした。そのやり取りはそのまま講座に持っていくことが出来ました。踊り手の中には，自分たちの踊りを説明すること，話すことにまだ慣れていなかったり，何を話したら良いのか見当がつけにくいという意見もありました。私が質問することで，講座で何を話したら良いのかが分かったという感想もお聞きしました。このようなやり取りが，踊り手と講座の参加者をつなぐ作業だったと思います。私が監修に携わった講座とイベントは，参加者が一緒に踊るという内容だったので，まずは踊り手が心地良く踊れる場づくり，そして出演者と参加者の交流を促す場づくりにも意識を向けて動きました。

監修について述べましたが，財団は企画，予算，広報などを取りまとめているので，大変な業務でした。特にイベントについては規模が大きいので，どこに申請したら予算を得られるか，期日に間に合うかなど大変苦労していました。頭が下がる思いです。広報活動についてもタイムスケジュール通りに進めるように奮闘していました。そうした多くの方の尽力のおかげでイベントが成り立っていました。また企画のタイトル作りはとても難しいものですが，私は先輩の當眞嗣光さんにサポートしてもらいました。友人や先輩，周りの人に相談しながら進めていくことも大事なポイントだと思います。

監修の役割

〈財団と行う作業〉

- **講座名**：対象者に興味を持ってもらえるように工夫する
- **開催日程・時間**：開催までのタイムスケジュールを決める
- **受講対象者の検討**：年齢制限などの有無
- **受講費用**：予算と相談，参加しやすい値段，資料代など
- **定員と会場**：予算等を考慮して検討する
- **広報**：ホームページ，チラシ，配布方法など
- **講師への依頼**：依頼内容を決める（依頼文，謝礼，支払方法）
- **当日の使用機材**：パソコン，プロジェクター，マイクなど
- **機材の搬入方法，待機場所**：駐車場の使用，着替えの部屋
- **アンケート集計**：振り返り

〈講師と行う作業〉

- **依頼**：電話やメールで連絡して，依頼する
- **訪問**：挨拶，趣旨と概要の説明，講師料などの条件提示
- **インタビューと内容の検討**：踊りについて教えていただき，講座で話す内容を一緒に検討する
- **当日のイメージ作り**：会場の使い方，必要な物品，流れの案，他団体の企画を紹介するなどしてイメージを膨らませてもらう
- **当日の動き**：リハーサルなどで動きの確認。本番で手伝って欲しいこと，伝えて欲しいことなどを確認する
- **司会**：参加しやすい場づくり，声かけ（講師と参加者をつなぐ）

5 最後に

“ひとはおどる”イベントの夜，全日本郷土芸能協会の小岩秀太郎さんが「感動を創り出す仕事がしたいよね」と語っていたことを思い出します。これからも民俗芸能の魅力をたくさん感じたい，そして伝えたいと思います。民俗芸能に関する講座やイベント，場が作られること，場が増えていくことを心から願っています。この文章を読んでいる皆さん，民俗舞踊，芸能の魅力を感じる場を創っていきましょう。　（宮城 整）